② タライ岬遊歩道

白砂青松・美しい海岸を行く

（家族向・一般向）

歩程 約2時間40分

▲大賀茂川畔のボードウォーク

南伊豆町が誇る弓ヶ浜海水浴場はその名のとおり弓型に弧を描いた白砂青松の浜で、夏には多くの海水浴客でにぎわう。松林の中に休暇村南伊豆があり、そこがコースの起終点。海水浴シーズン以外は、日帰り温泉で疲れた身体を温めることが出来る。

風の音を聞きながら東へ進むと、荒々しい磯の逢ケ浜へ出る。弓ヶ浜の砂浜とは対照的に、ゴロタ石と奇岩が浮かぶ。潮が満ちてくると群雀の鳴くような音を立てる雀岩、続いて姑岩、尖った形の中が穴になったエビ穴が確認できる。これらは海食によって出来上がったものである。海底火山のマグマが造った放射状の割れ目である放射状節理も確認できる。11月頃にはツワブキとイソギク、3～4月頃にはハマダイコンが咲き誇る。

浜のはずれから吹折坂という石と丸太の階段を上り、上り切ると案内標識のある分岐。右にはきつい急階段を上っていく**健脚コース**と、その左には急階段を迂回する**らくらくコース**がある。二つのコースは合流し、緩やかな灌木の中を上り、ウバメガシの林を抜けるとタライ岬に出る。

足元に広がる青い海、岩に打ち寄せる白い波と雄大な大海原を一望できる。右後方に弓ヶ浜から南伊豆の海岸線、その先に蓑掛岩、石廊崎。正面には灯台をのせた神子元島、遠か沖には伊豆七島も確認できる。さらに東を見ると、半月形にぽっかりと口を開けた大洞と、伊豆に配流された源頼朝が遊んだという伝説が残る遠国島を見ることが出来る。

再び灌木の中を下って磯に出てから小さな沢沿いに上る。磯づたいにつり人が歩く道もある。

沢沿いの道の両側に無数の小さな穴があいている。このあたりで「ウオノカニ」と呼ばれているカニの穴だ。

ゆるやかに灌木林を行くとボードウォークの道となり、上り切ると丁字路の分岐。左すぐ上に、前にタライ岬へ向かった分岐が見える。

右へ平坦な道を行く。沢沿いからこの辺りまでツバキが植栽されている。

ウバメガシの林を下って舗装道に出ると案内板がある。

道はこのあとアシタバが多く見られる広い舗装道となり、遠国島を間近に見ながら、やがて、素掘りの小さなトンネルを抜けると、もう田牛の集落に入る。夏には海水浴にいい広い砂浜があり、右手の港にはイセエビ漁の朱色の網が、ひときわあざやかに干されている。

龍宮窟バス停から集落の細い道を少し行ったところに、国の重要文化財「木造阿弥陀如来座像」が安置されている長谷寺がある。

浜のはずれのこんもりとしたところが龍宮公園で、波の浸蝕でできた龍宮の穴と呼ばれる大きな洞（龍宮窟）をめぐる周遊道がついている。その先、トンネルの手前を右に細い階段を降りると、海からの強風で吹き上げられた砂の急斜面がある。地元の子供たちは、この斜面で手製のソリを使ってサンドスキーを楽しんでいる。また、この浜一帯は県の天然記念物になっているハマユウの群生地でもある。

ここからバスで下田へ出ればいいのだが、1日に数便しかないので、海岸を3km程ど歩いて吉佐美バス停へでるといい。途中、ハマボウの群生地や国の天然記念物イスノキのある八幡神社、十六羅漢を祭る宝徳院へ寄って行こう。十六羅漢めぐりは約40分。

▲タライ岬

■コースタイム（参考）■

伊豆急下田駅 —バス— 吉佐美 60分 ← 60分 → 田牛 60分 ← 60分 → タライ岬 25分 ← 30分 → 逢ケ浜 10分 ← 10分 → 休暇村 —バス— 伊豆急下田駅

▲逢ケ浜